

4. おわりに

4.1. 今後の展開

平成 9 年より試行の取り組みを始め、参考事例集などの整備もあって、一部では正しい理解のもとで設計 VE が取り組まれているが、設計 VE に対する理解が十分でないのも事実である。

このガイドライン策定にあたっては、手本となるような事例が数少なく、示した手順などが全ての設計において、円滑に実施できるかどうか、検証できていない部分もある。したがって、今後、設計 VE ガイドラインを参考にし、設計 VE を試行することにより、その活用の効果やさらなる課題などの検証を行う必要がある。そこで、ガイドラインの精査を行っていくとともに、取り組みの円滑化・効率化に資するため、蓄積された試行事例を収集・整理し、事例集を作成していくこととしている。

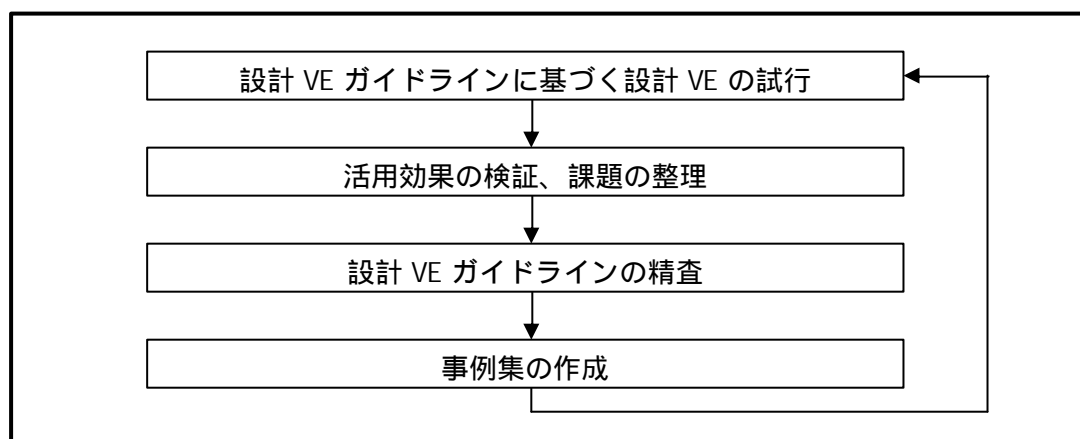


図 5 試行における設計 VE ガイドラインの改善

4.2. 理解を深めるために

国土交通大学校では、平成 15 年度より特別課程であるコスト縮減研修として、「設計 VE の演習」を実施している。同演習では、公共工事の現場に合ったコスト縮減方策等に関する企画・立案能力を向上させるため、設計 VE 手法を用いて、改善課題の設定・評価から、重要課題に対する検討、具体化、提案書の作成といった一連の実習をワークショップ形式で行っている。

【Column : VE の資格制度】

(社)日本VE協会では以下のようなVE資格者制度を用意しており、VEの理解の促進と普及に努めている。

<p>1) VEリーダー (VEL)</p>	<p>VEリーダーは、企業、団体等の組織の生産ラインマン、グループリーダー、第一線監督者、中堅管理者などの方々が、それぞれの職場やグループでの活動において、VE活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識をもっている人材。</p>
<p>2) VEスペシャリスト (VES)</p>	<p>VEスペシャリストは、企業、団体等の組織で、VE活動の実施・推進の任に就く責任者、担当者などの方々が、VE専門家として備えるべき諸知識や技術、経験をもっている人材。</p>
<p>3) CVS認定制度</p>	<p>日本VE協会では、米国VE協会(SAVE International)との提携によりVE専門家資格であるCVS(Certified Value Specialist)の認定と国際登録を行っている。このCVS資格は、受験者のVEに関する知識、経験、行動について審査し、極めて高い水準に達していると認められた場合に授与されるもので、日・米双方のVE協会に国際登録される。</p>